

## 目次

■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報	落ち着きをみせる粉乳相場	p. 2-3
■ バター情報	バター生産量 欧州・オセアニアとは対照的な米国	p. 3-5
■ ホエイ情報	米国ならびに欧州産相場、堅調に推移	p. 5
■ カゼイン情報	相場下落するも調整局面	p. 5-6
■ 乳糖情報	米国産 200 メッシュサイズにタイト感	p. 6
■ チーズ情報	中国、米国チーズ状況	p. 7-9
■ 国内情報	農林水産省、2017 年度バター・脱脂粉乳輸入数量を発表	p. 9-10
■ アムステルダム駐在員情報	脱脂粉乳対策事業の現状 / オランダのリン酸塩排出規制計画を承認	p. 11-12
■ メルボルン駐在員情報	MGC 社 上半期決算 / Saputo 社 WCB 社株 100%取得へ	p. 12-14
■ 米国駐在員情報	生乳、各種乳製品生産量	p. 14-15
■ 中国駐在員情報	上海、2017 年上半期の生乳価格決定	p. 16
■ 主要生産国の現行乳価		p. 16
■ 出典		p. 17

## ■ 脱脂粉乳・全脂粉乳情報

### ■ 落ち着いたきをみせる粉乳相場

粉乳相場は、脱脂粉乳、全粉乳共に若干の弱含みにて推移している。オセアニアでは生乳生産のピーク時期を過ぎ、閑乳期へと差し掛かっており、豪州の今シーズンにおける生乳生産量は昨シーズンと比べ大幅な減少となっている。ニュージーランド(NZ)においても豪州ほどではないものの、昨シーズン対比では減少する見込みとなっている。

EUでは季節的に生乳生産量は伸びてはいるものの、昨年と比べると総量は下回って推移している。しかしながら供給に対して需要が下回っているため、相場は落ち着いたきを見せている模様。現在、脱脂粉乳相場はEU産が最も競争力を持っており、次いで米国、オセアニアとなっている。全粉乳においてはEU産及びNZ産が同価格帯となっており、豪州産は供給力がない状況となっている。

#### EU

EUは季節的要因により生乳生産量は増加しているものの、寒冷な気温による影響を受け、生乳生産量が昨年を下回るペースにて推移している。2017年10-12月の生乳生産量は昨年同時期比で3.4%減となった。その中でも特に昨年対比で減少が大きかったのが、ドイツ、フランス、イギリスで、それぞれ4.6%、7%、6.6%もの減少となっている。EU産脱脂粉乳相場は弱含みにて推移している。要因の一つとしては脱脂粉乳の政府介入在庫が積み上がっており、消化が乏しいことによるものと考えられる。EU産全粉乳相場はやや弱含みにて推移している。国際市場からの需要は弱い一方、全粉乳サプライヤーには供給余力があるため、輸出先を探している模様。

#### オセアニア

豪州の生乳生産量はピーク時期を過ぎたことにより低調に推移している。2016年12月の生乳生産量は昨年同月比4.1%減となった。これは天候による影響に加え、低乳価により酪農家のモチベーションが上がらなかったこともまた影響を与えている。2017年7-12月蓄積の生乳生産量もまた昨年同時期比で8.5%減となっている。NZにおいても春先の降雨多の影響により2016年12月の生乳生産量は昨年同月比で3.0%減、同年前月比では5.9%の減少となっている。

オセアニア産脱脂粉乳の価格はほぼ横ばいに推移しており、ヨーロッパ産と比べると競争力はない。多くの需要者もそれに気づいており、オセアニア産脱脂粉乳に対しての需要は弱まってきている模様。豪州における2016年12月の脱脂粉乳生産量は、昨年同月比17.2%減となっており、7-12月の生産量は昨年同時期比で10.3%減となった。同国の2016年7-12月における脱脂粉乳輸出量は昨年同時期と比べ19.8%減となっている。現在豪州では生産した脱脂粉乳を輸出ではなく、自国の消費を中心に回している模様。

NZにおいては全粉乳を製造するよりも脱脂粉乳やバターを製造した方が利益率が高いため、脱脂粉乳の製造量が伸びている。同国の2016年1-11月の輸出量は昨年同時期と比べ、14.4%増となっており、主な輸出国の内訳としては、中国が22.4%、マレーシアが9.6%、フィリピンが9.4%となっている。2月21日に行われたGDTの脱脂粉乳平均価格はUSD2,574/MT(本船船側渡し価格)となっており、2月7日に行われたGDTの脱脂粉乳平均価格USD2,608/MT(本船船側渡し価格)と比較すると1.3%の値下げとなった。

オセアニア産の全粉乳価格は弱含みにて推移している。これは昨年末に需要が集中し、年明けからの需要が落ち着いたことによる影響を受けたものである。2月21日に行われたGDTの全粉粉乳平均価格はUSD3,189/MT(本船船側渡し価格)となっており、2月7日に行われたGDTの全粉粉乳平均価格USD3,314/MT(本船船側渡し価格)と比較すると3.8%の値下げとなった。

#### 米国

米国の生乳生産量は好調に推移している。同国の2017年1月の生乳生産量は、対前月比1.5%増であった。また昨年同月比では2.5%増となっている。米国における牛1頭当たりの搾乳量においても、昨年と比較すると2.5%増となり、今後も生乳生産量の伸びが見込まれている。脱脂粉乳価格は弱含みにて推移しており、EU産に次ぐ価格

競争力を有している。

### 今後の見通し

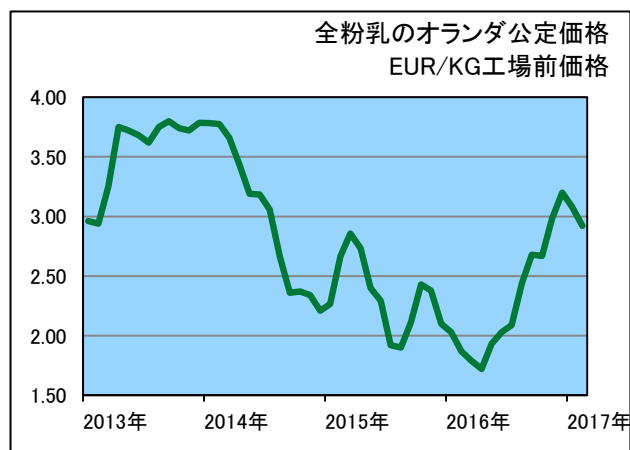
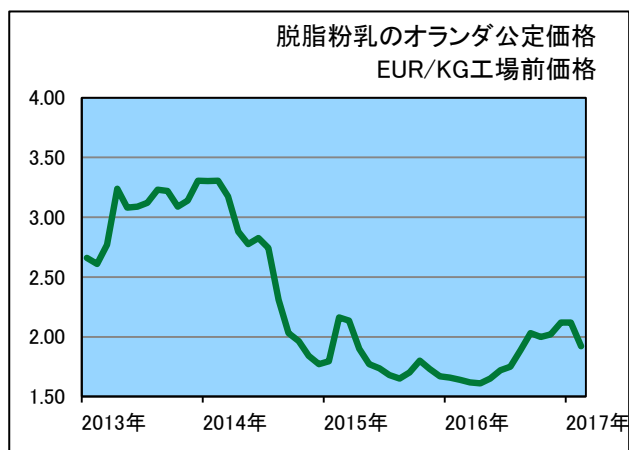
2月は中国や東南アジアにおける旧正月時期ということもあり、相場に大きな影響を与えるような動きは見られなかった。

オセアニアではこれから閑乳期を迎えるにつれて、生乳生産量が限られ、供給がタイトになる恐れがあるため必要な分は事前に確保する必要があると考える。豪州での生乳生産量は特に減少傾向にあるため、プロダクトミックスによる利益効率を勘案し、全粉乳の製造が後回しとなっている。EU では政府介入在庫が消化されるまで脱脂粉乳相場は低調に推移するものと見込まれるが、引き続き、放出のタイミング及び消化までの動向を注視する必要がある。

また、大手需要者である中国の動きに関して、2016年の全粉乳輸入量は約42万トン(対前年比21%増)であったのに対し、脱脂粉乳の輸入量は、約18万5千トン(対前年比8%減)であった。中国の粉乳輸入量は、自国の生乳生産量及び自国乳の在庫状況に大きく影響を受けるとされており、同国の2016年の在庫レベルがあまり十分ではないこと、また、乳牛屠殺数の増加や中小酪農家の廃止等の情報があるため、今後同国からの需要が増えれば、相場に大きく影響を与える可能性がある。引き続き、中国の動向を見つつ適切なタイミングで物を確保していくことが重要である。

### 現在の粉乳取引価格

EU産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,200- 2,600/MT CFR ASIAN PORTS
EU産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,500 - 3,900/MT CFR ASIAN PORTS
オセアニア産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,800 - 3,200/MT CFR ASIAN PORTS
オセアニア産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 3,500 - 3,900/MT CFR ASIAN PORTS
米国産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE)	:	USD 2,300 - 2,600/MT CFR ASIAN PORTS



<中村>

## ■ バター情報

### ■ バター生産量 欧州・オセアニアとは対照的な米国

#### 欧州

2月の欧州産バター相場は全体的には軟化傾向であったが、国によって違う動きを示した。オランダとフランスは、2月後半で価格が上向いた一方で、ドイツは安定的に推移した。欧州産バターの世界との価格差は、為替の影響もあって縮まりつつある。

2016年のバター生産量は累計で前年比2.6%増となったものの、12月単月では、前年同月比9.0%減と大きく下回った。2016年12月末のPSA(民間補助在庫)バター在庫量は26,875トン(前年同月比53%減)となった。主な内訳はオランダ 12,766トン、アイルランド 5,757トン、フランス 3,090トン。

**オセアニア**

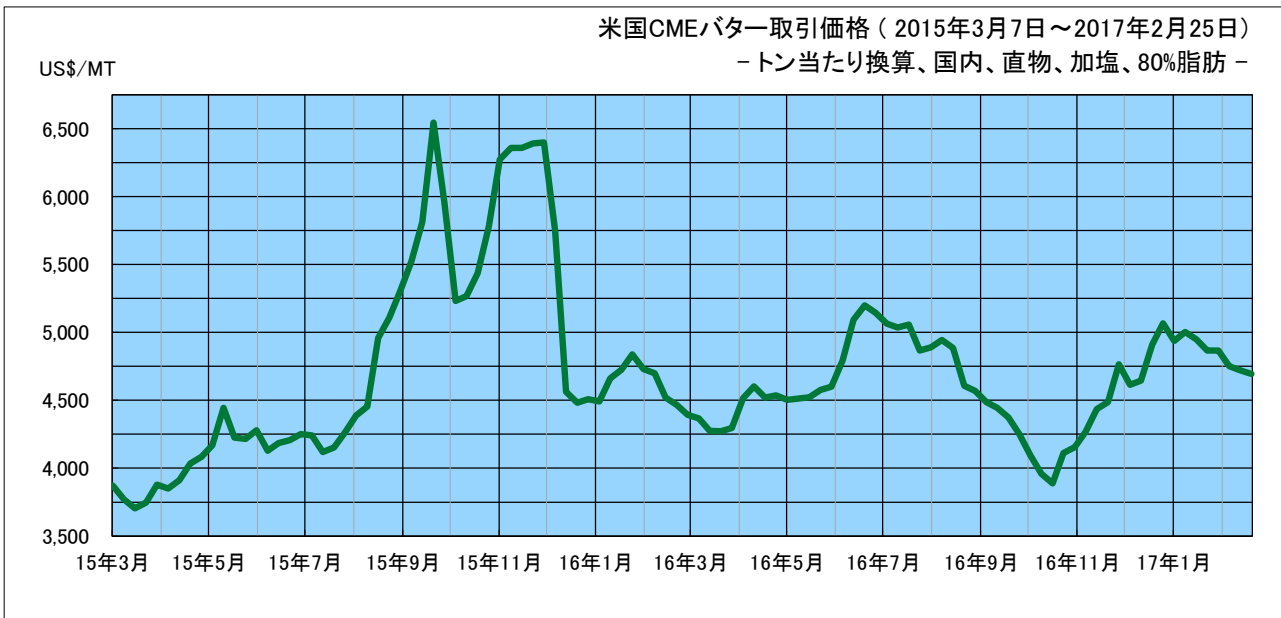
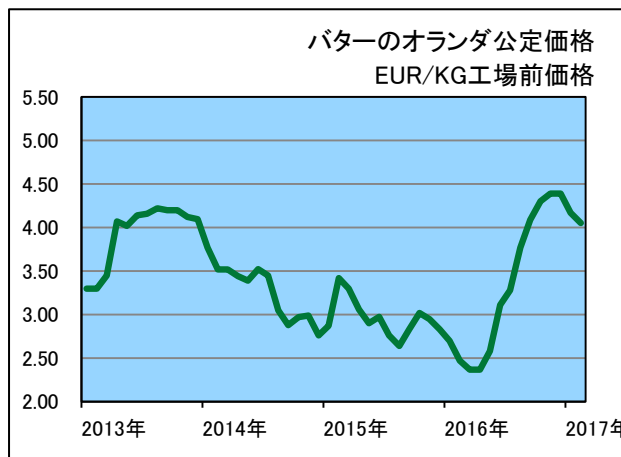
オセアニアのバター相場は堅調に推移している。

豪州産バター及びバターオイルの生産量が大きく落ち込んでいる。Dairy Australiaによると、12月のバター生産量は6,648トンと前年同月比20.3%減、7-12月累計では41,552トンと前年同期比13.0%減であった。バターオイルは12月の生産量が981トンと前年同月比46.2%減、7-12月累計では29.7%減と、バター以上に生産量が落ち込んでいる。

2月のGDTオークションは、1回目のAMF平均価格がUSD5,765/MT FAS(船側渡し)と前回(2017年1月17日)比4.3%増、バターの平均価格はUSD4,593/MT FASで前回比4.8%増と上昇した。2回目の平均価格はAMFがUSD5,693/MT FASで前回比1.2%減であったのに対し、バターはUSD4,598/MT FASで0.1%増と小幅ながら続伸した。

**米国**

2月の米国産バター相場は弱含みで推移した。12月のバター生産量は約7万4千トンと前年同月比6.7%減となったものの、前月比では9.6%増であった。余剰クリームが安値で出回りバターの生産を後押ししているようだ。1月末のバター在庫量は約10万1千トンと、前年同月比で16.1%増、前月比では34.3%と大幅に増加している。2016年のバター輸入量は約2万9千トンと記録的な数量となり、前年比21.6%増となった。



2017年5月のバター取引価格 (換算レート EUR/USD1.12)

EU産バター価格	USD6,450~USD6,800/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD5,800~USD6,200/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD5,900~USD6,400/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	USD5,850~USD6,300/MT CFR ASIAN PORTS

<小瀬村>

## ■ ホエイ情報

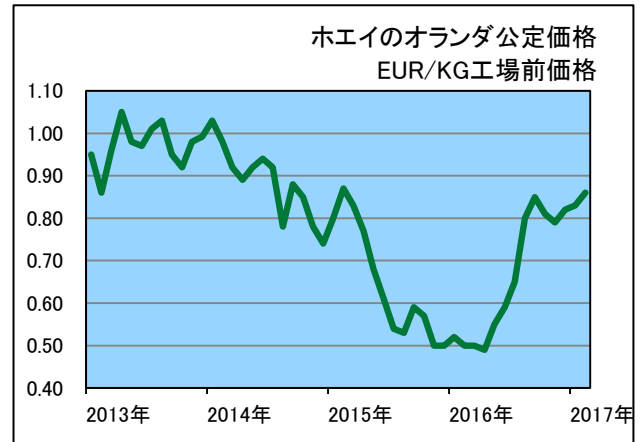
### ■ 米国産ならびに欧州産相場、堅調に推移

旧正月が終わり東南アジアからの引き合いは落ち着きを見せている。価格が下がることを期待して買い控える動きもあるようだが、中国からの引き合いは依然として増加傾向にあり米国産ホエイパウダーの相場は堅調に推移している。NASS(米国農務省全国農業統計局)によると、2016年12月の米国産ホエイの生産量は3万6千トン(前年同月比13.3%減)、2016年通年では43万4千トン(前年比1.8%減)であった。2016年末時点でのホエイ在庫は2万9千トンで前年同期比2.3%減となっている。

欧州産相場も堅調に推移している。在庫調整のために値下げをしてオファーを出している製造者も一部あるようだが中国やメキシコからの需要は引き続き強く、相場は上昇基調のまま続くと見込まれる。

米国産 WPC-34 の相場は上昇し続けている。タンパク質の含有量がより高いホエイ、即ち WPC-80 や WPI 等の需要が増加している一方で、WPC-34 の生産量が減少しており在庫はタイトな状況である。そのため脱脂粉乳/NFDM も使用できるように最終製品の処方を変更して対応している需要家もいるようだ。NASSによると、2016年12月の米国産 WPC-34 (25.0-49.9%) の生産量は6,500トンで前年同月比17.5%減、同年前月比8.6%減となっている。2016年末時点の同商品の在庫量は8,700トンで前年同期比27.7%減、2016年11月比1.0%減となっている。

<高野>



## ■ カゼイン情報

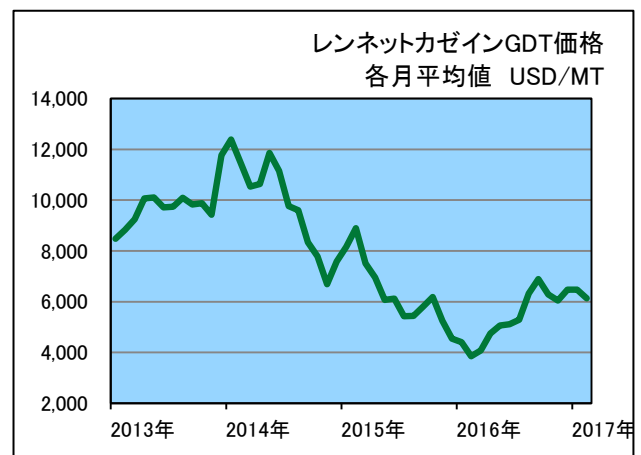
### ■ 相場下落するも調整局面

カゼイン相場について様子見の状態が続いていたが、「短期的にはカゼインの価格上昇の可能性は限定的」との見方が広がったことから価格は下落に転じた。需要そのものに変化はないものの、既に多くの需要家が本年前半分の買い付けを済ませており、中には半年以上の長期契約を結んだ需要家もいることから、カゼインの買い付けは一段落し、引き合いは減少している。成約のタイミングを逃してしまい、結果、在庫過多気味となっているサプライヤーもいることから、相場は上昇基調から下落基調に変わったとする需要家も出てきている。

供給面では欧州・オセアニアでの生乳生産量の減少

という状況は変わっていない。一方、市場への影響は限定的であるものの NZ の Fonterra 社が集乳量の上方修正(前年対比7%減→5%減)を行った。2月21日のGDTでは、応札数の減少、Fonterra社での集乳量上昇修正の影響を受け、レンネットカゼイン価格は5%下落となった。

ここ一カ月、需要が停滞したこと・供給も予想ほど減少していなかったことからカゼイン価格は短期的に下落した





ものの、欧州・オセアニアにて生乳生産が減少しており、カゼインの供給についても引き続き調整がなされていくと考えられ、長期的なトレンドとしては上昇基調にあるものと思われる。

<作田>

レンネットカゼイン GDT 過去3カ月の落札価格

入札日	(単位:MT)
2016年12月6日	USD 6,201
2016年12月20日	USD 6,473
2017年1月3日	USD 6,234
2017年1月17日	USD 6,470
2017年2月7日	USD 6,445
2017年2月21日	USD 6,135

## ■ 乳糖情報

### ■ 米国産200メッシュサイズにタイト感

#### 欧州

欧州乳糖相場は、引き続き堅調に推移している。1月上旬の強い寒波の影響を受けて生乳生産量は減少しており、チーズ、原料ホエイ、乳糖生産量も低調に推移している。需要面では、介入在庫の影響で脱脂粉乳の蛋白調整用途は落ち着いているものの、域内、中国向け育児粉乳の蛋白調整用途は引き続き旺盛でタイト感が続いている。一部で第2四半期まで契約済みで、6月までオファーが出せないサプライヤーも始めている。

今後についても基本的には堅調に推移すると思われるも、春に向かう中チーズ、原料ホエイ、乳糖の各生産量増加が予想され、相場的大幅上昇は考えにくい。

国別乳糖輸入量:1月時点の累計(単位/トン)

	2016年	2017年	(%)
オランダ	363	578	59
フランス	100	68	-32
ドイツ	1,078	932	-14
カナダ	316	258	-18
米国	3,830	3,813	0
豪州	0	0	0
ニュージーランド	244	228	-7
その他	152	176	16
合計	6,083	6,053	1

#### 米国

米国産乳糖も引き続き堅調に推移している。飼料用穀物・牧草の低価格に支えられて生乳生産量は増加しており、チーズ生産量も好調に推移している。12月のホエイパウダー生産量が昨年同月比13.3%減、WPC80が9.5%減少している一方で、高利益のWPI生産量は同月比で25%増加した。結果として乳糖生産量も増加しており、昨年同月比で2.5%増と、好調を維持している。需要面では、粗いメッシュサイズの需給バランスが回復傾向にある一方で、細かい200メッシュは国内外の製菓用途や育児粉乳用途が旺盛でタイト感が続いている。大手主要育児粉乳メーカーが供給確保のため、第2四半期のみならず、第3四半期、第4四半期の手当を急いでおり、一部の主要サプライヤーでは年内契約を完了している模様。

第2四半期は、粗いメッシュサイズは需要と供給の均衡が取れた状態が続き、大幅な価格上昇は考えにくい。一方で、細かい200メッシュについては、タイト感から堅調に推移するものと思われる。

米国からの乳糖輸出量(2016年1月~12月)

1. 中国	61,865	トン
2. ニュージーランド	47,220	トン
3. 日本	46,417	トン
4. メキシコ	34,007	トン
5. ベトナム	25,712	トン
6. 韓国	19,602	トン
7. インドネシア	20,707	トン
輸出量総計	362,110	トン

米国の乳糖生産量と在庫量(2016年12月)

乳糖生産量	42,366トン	前年比2.5%増
月末在庫	45,994トン	前年比1.7%減

<真野>

## ■ チーズ情報

### 中国チーズ状況

中国における2016年のチーズ総輸入量(H.S code 0406)は、2015年対比約28%増加しており、約9万7,000トンであった。中国主要都市部の人口の増加、また、食生活の欧米化が大きな要因と考えられており、特にピザやデザート需要の高まりが大きい。これを受け、モザレラチーズ及びクリームチーズの輸入量は特に大きな伸び率を示している。これらチーズを含めたカテゴリー(H.S code 040610)で見たナチュラルチーズ輸入量は2016年には約3万6,200トンとなっており、2015年比約54%増加している。その中で大きなシェアを誇っているのがニュージーランド(約2万5,200トン)及びオーストラリア(約8,600トン)であり、両国で全体の90%以上を占めている計算となる。中国は両国とそれぞれFTAを締結しており、低関税で製品を輸入出来ることも輸入量増加の大きな要因の一つに挙げられる。

2014年-2016年 中国チーズ総輸入量(H.S code 0406)

輸入国	輸入数量(トン)			全体に占める割合(%)			2016年/2015年 輸入数量比
	2014	2015	2016	2014	2015	2016	
ニュージーランド	28,825	36,780	51,117	43.75	48.66	52.67	138.98%
オーストラリア	17,336	15,278	19,968	26.31	20.21	20.57	130.70%
ウルグアイ	491	925	1,600	0.75	1.22	1.65	172.97%
ドイツ	855	1,485	2,460	1.30	1.96	2.53	165.66%
チリ	0	46	338	0.00	0.06	0.35	734.78%
米国	11,635	11,658	8,957	17.66	15.42	9.23	76.83%
イタリア	1,371	1,898	2,585	2.08	2.51	2.66	136.20%
フランス	1,916	1,889	3,366	2.91	2.50	3.47	178.19%
デンマーク	1,083	2,427	3,103	1.64	3.21	3.20	127.85%
英国	49	49	575	0.07	0.06	0.59	1173.47%
韓国	11	10	49	0.02	0.01	0.05	490.00%
シンガポール	126	172	88	0.19	0.23	0.09	51.16%
スイス	69	88	72	0.10	0.12	0.07	81.82%
ポルトガル	0	0	9	0.00	0.00	0.01	-
オーストリア	383	542	529	0.58	0.72	0.55	97.60%
ギリシャ	9	24	29	0.01	0.03	0.03	120.83%
アイルランド	196	211	244	0.30	0.28	0.25	115.64%
日本	0	1	0	0.00	0.00	0.00	0.00%
スウェーデン	3	0	1	0.00	0.00	0.00	-
モンゴル	0	0	1	0.00	0.00	0.00	-
アルゼンチン	717	724	763	1.09	0.96	0.79	105.39%
スペイン	55	69	161	0.08	0.09	0.17	233.33%
台湾	122	166	147	0.19	0.22	0.15	88.55%
ベルギー	1	19	34	0.00	0.03	0.04	178.95%
チェコ	48	46	44	0.07	0.06	0.05	95.65%
ポーランド	95	194	200	0.14	0.26	0.21	103.09%
オランダ	491	880	611	0.75	1.16	0.63	69.43%
合計	65,887	75,581	97,051	100.0	100.0	100.0	128.41%

2014年-2016年 中国ナチュラルチーズ(フレッシュ)総輸入量(H.S code 040610)

輸入国	輸入数量(トン)			全体に占める割合(%)			2016年/2015年 輸入数量比
	2014	2015	2016	2014	2015	2016	
ニュージーランド	16,234	18,873	25,263	81.78	80.42	69.69	133.86%
オーストラリア	2,751	3,101	8,628	13.86	13.21	23.80	278.23%
ウルグアイ	0	375	650	0.00	1.60	1.79	173.33%
ドイツ	126	171	442	0.63	0.73	1.22	258.48%
チリ	0	24	335	0.00	0.10	0.92	1395.83%
米国	360	433	293	1.81	1.85	0.81	67.67%
イタリア	293	225	242	1.48	0.96	0.67	107.56%
フランス	37	192	127	0.19	0.82	0.35	66.15%
アルゼンチン	12	25	125	0.06	0.11	0.34	500.00%
スペイン	0	0	36	0.00	0.00	0.10	-
台湾	37	30	35	0.19	0.13	0.10	116.67%
ベルギー	0	19	23	0.00	0.08	0.06	121.05%
チェコ	0	0	21	0.00	0.00	0.06	-
ポーランド	0	0	18	0.00	0.00	0.05	-
オランダ	0	0	11	0.00	0.00	0.03	-
合計	19,850	23,468	36,249	100.0	100.0	100.0	154.46%

原料となる生乳不足により、2017年度7-12月船積み分についてもニュージーランド、オーストラリアのモザレラチーズ、クリームチーズの供給量が不安視されている中で、上記の理由により旺盛な中国需要は引き続き伸長していくと考えられ、その結果世界の需給バランスに及ぼす中国の影響力は否めないと考えられる。今後も中国需要には関心を払って行きたい。

## 米国チーズの在庫量

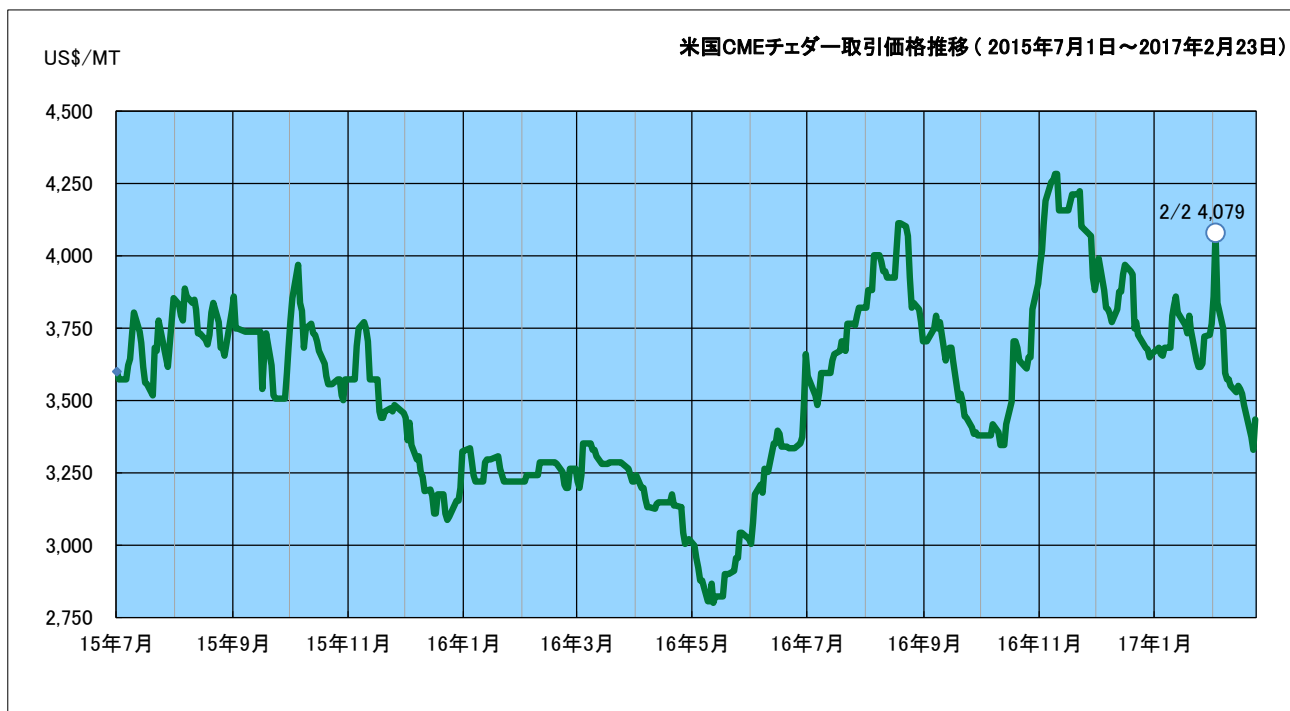
Daily Dairy Report 2月23日号によると、2017年1月末時点における米国国内のナチュラルチーズ在庫量は約55万7,900トンと、昨年同月比で4.6%増となった。前月比では約5,900トンと2.9%の増加にとどまり、直近に見られる増加率よりも低い値となっている。しかし、アメリカンタイプ(チェダー、モントレージャック等)の在庫量に焦点を当ててみると、2017年1月末時点での在庫量は約34万5,200トンに達し、前月比で約1万5,400トンの増加となっている。この増加幅は2000年以降最大となっている。

## 米国CME相場

2017年2月のCMEスポット相場は2月1日にUSD3,859/MTから開始となった。2月2日には一時USD4,079/MTと高値を付けたものの、その後は先述した米国国内の潤沢な在庫量と2017年1月の米国の好調な生乳生産量が相まって軟調に推移し、2月23日時点ではUSD3,434/MTとなっている。

このような米国国内市場の状況を反映し、日本向け輸出価格に関しても今後は軟調に推移することが期待されているが、EU及びオセアニアのナチュラルチーズ国際相場の状況によってはCWT(輸出助成金)が大きく変動することもあると考えられるので動向を注視していきたい。





&lt;小林(陽)&gt;

## 国内情報

### 2017年度バター・脱脂粉乳輸入、各々1万3千トン ~ 農林水産省発表

#### 生乳生産

農林水産省が発表した1月の全国生乳生産量は61万8,110トンで前年同月比1.4%減となった。地域別では北海道が32万4,329トンで前年同月比1.9%減、都府県は29万3,781トンで前年同月比1.0%減となっている。ホクレンは2月17日、6万トンの生乳一般競争入札を3月10日に実施すると発表した。乳製品向けの生乳不足が懸念されているため入札の結果に注目したい。昨年4月21日に実施された入札では最高落札価格¥96.0/kg、最低落札価格¥89.0/kgとなっている。

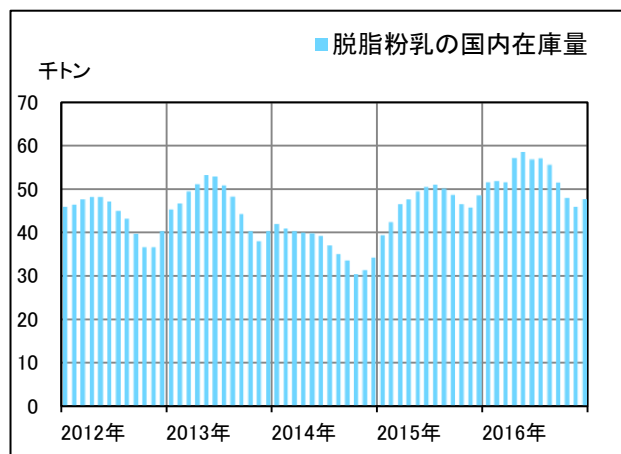
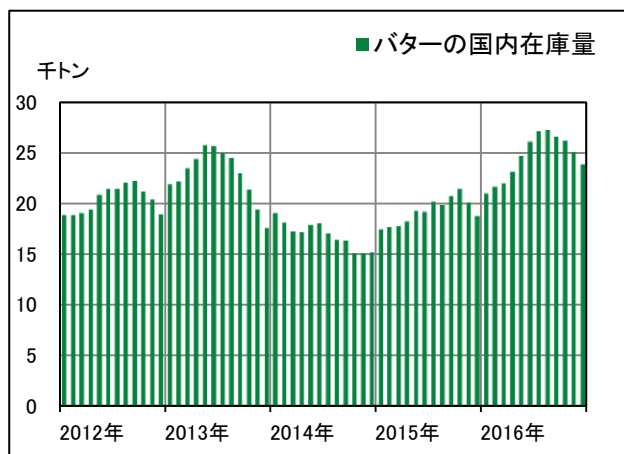
#### バター

農林水産省が発表した1月のバター生産量は6,030トンで前年同月比11.4%減、在庫量は25,660トンで前年同月比21.7%増となった。

農畜産業振興機構が1月31日に実施したSBS(売買同時契約方式)入札1,500トンに対し、応札・落札数量は1,310トンと競争倍率は0.87倍、2月16日のSBS入札では前回の不落分190トンを上乗せた1,690トンに対し、応札数量は890.8トン、落札数量は722.8トン、競争倍率は0.53倍といずれの入札も不落が生じている状況。しかしながら、年末以降、飲用向け需要が堅調に増加していることからバターの作りだめも思うようにできておらず、関係者によるとホクレンの1月の脱脂粉乳・バター等向け乳量は前年比12%と大幅に減少している。バターの輸入方針を発表したことで数字上では需給の問題は解消されたようにも見えるが国産品のみを使用している国内ユーザーも多く、輸入品への置き換えにも限界があるのが実情。農畜産業振興機構は2017年3月以降も基本的に毎月輸入入札を実施し、入札数量はバター及び脱脂粉乳のそれぞれの需要に応じて設定する予定と発表している。

### 脱脂粉乳

農林水産省が発表した1月の脱脂粉乳生産量 11,154 トンで前年同月比 11.6%減、在庫量は 48,620 トンで前年同月比 5.6%減となった。Jミルクが1月27日に発表した2017年度の需給見通しによると脱脂粉乳の生産量は12万トンで前年比4%減、不足数量を1万4千トンとしている。農畜産業振興機構は2月1日、2017年度カレントアクセス枠として脱脂粉乳1万3千トンを入力すると発表。2月21日に実施されたSBS入札5,000トンの応札数量は1万9千トンで競争率は約3.8倍、落札平均価格は¥734,705/トン(税抜)と大口需要者価格を大幅に超えた。同月23日、2016年度追加輸入枠の脱脂粉乳1,922.875トンの売渡一般入札が実施され、応札数量は6,622.525トン、競争倍率は3.4倍、落札平均価格¥727,162/トン(税抜)となり需要の高さが際立つ結果となった。発酵乳の需要も依然として好調であり、今後の需給がかなり厳しいものとなる可能性は高いと見込まれる。



2016年度、バター需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	18,335	106.7%	15,740	91.7%	26,145	136.5%	4.2
第2四半期	14,380	97.8%	13,927	84.6%	26,598	127.9%	4.3
第3四半期	13,874	93.8%	24,589	107.5%	23,883	115.4%	3.8
第4四半期	18,530	94.4%	16,753	91.7%	25,660	116.4%	4.1
合計	65,119	98.2%	71,009	95.0%	25,660	116.4%	4.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2016年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	33,574	101.4%	33,291	94.6%	56,763	112.5%	4.7
第2四半期	27,213	95.0%	36,908	106.2%	51,368	105.6%	4.3
第3四半期	29,827	94.9%	35,535	90.9%	47,660	110.8%	4.0
第4四半期	35,654	96.4%	37,694	119.6%	48,620	94.4%	4.2
合計	126,268	97.0%	143,428	102.0%	48,620	94.4%	4.2

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<高野>

## ■ アムステルダム駐在員情報

### ■ 欧州委員会 脱脂粉乳対策事業の現状 介入在庫売り渡し不調、PSA(民間在庫補助)終了

現在、欧州委員会は脱脂粉乳に対する補助事業として、欧州委員会による脱脂粉乳買い上げ(Intervention Stock)並びに民間在庫補助(PSA)の二つを実施している。それぞれの現状は下記の通りである。

#### 1. 欧州委員会による脱脂粉乳買い上げ(Intervention Stock)

欧州委員会は2月7日に第4回、2月21日に第5回となる脱脂粉乳の介入在庫からの売り渡し入札を行った。オファー数量は前回と同様の21,962mt。結果は、下記表の通り毎回応札数量が減少し、価格も低価格のままであった。そのため、第4回、第5回ともに全量不落となり、市場からの介入在庫に対する興味が薄れており、またまだ欧州委員会が脱脂粉乳の落札判断基準を変えていないことが確認できる結果となった。35万トンのままで減っていない在庫に対するEUの今後の対応が注目される。

表 欧州委員会 介入在庫放出入札結果

入札日	入札対象数量	応札数量	落札数量	応札価格	落札価格
2016年12月13日	22,150mt	19,707mt	40mt	EUR 1,751-2,200/mt	EUR 2,151- 2,200/mt
2017年1月3日	21,962mt	11,914mt	0mt	EUR 1,651-1,961/mt	-
2017年1月17日	21,962mt	7,489mt	0mt	EUR 1,550-1,900/mt	-
2017年2月7日	21,962mt	1,796mt	0mt	EUR 1,550-1,850/mt	-
2017年2月21日	21,962mt	1,386mt	0mt	EUR 1,400-1,803/mt	-

#### 2. EUによる民間在庫補助(PSA)

PSAとは、民間業者からの申請により、欧州委員会が一定期間脱脂粉乳並びにバター保管料・金利を補助することで、対象乳製品を一旦市場から隔離し需給調整を行うための施策である。今回のPSAはロシアが乳製品の禁輸を発動した後の2014年9月から継続されてきた。

そのような中、脱脂粉乳は2017年1月末時点で約7万トンまで在庫が積み上がった。欧州委員会は本年2月末をもって脱脂粉乳のPSAを終了することを明らかとした。2016年中ごろより乳製品の相場が回復傾向にあることを理由としている。なお、欧州委員会は今後の需給及び相場の状況を注視し、状況によっては再度の補助を検討できる状態にある、としている。しかし、PSA終了に伴い、脱脂粉乳の供給量が3月以降徐々に増加することが予想され、介入在庫に係る動向とともに今後の脱脂粉乳市場に影響を与える要因となると言える。

### ■ 欧州委員会 オランダのリン酸塩排出規制計画を承認

この度欧州委員会は先般オランダより提示された酪農・畜産業を対象としたリン酸塩排出規制計画を承認した。同計画によると、オランダ国内で16万頭の牛並びに相当数量の豚・鶏を処理することになり、今後のオランダ酪農・畜産業に影響が出るものと思われる。但し、オランダの乳業関係者には、一部はより中長期的になるかもしれないがオランダの生乳生産をできるだけ維持できるような色々な取り組みがなされるので、乳牛頭数の減少がそのまま生乳生産の減少になることはなくある程度のところで止まる、という見解を示す向きが多い。

#### 背景

2006年よりオランダは、同国内におけるリン酸塩の排出量17万2,900トンを上限に、他EU諸国より多くの有機肥料(糞尿等)を放牧地へ使用しても良いという許可をEU内で得ていた。上記規定値は同国における2002年時のリン酸塩排出量である。しかし、2015年のEU生乳生産割当撤廃後、オランダの乳牛頭数増加に伴いリン酸塩排出量も増加し、2015年の同排出量が17万6,300トンにまで達し、規定値を超過してしまった。その後オランダでは2015年

7月2日時点での乳牛飼育頭数を基準とした新しいリン酸塩排出許可を国内法にて制定したものの、2015年10月13日、欧州委員会は同国内法がEU基準に合わないとして認めない姿勢を示し、オランダは早急に同排出量を基準値内に収めるための新しい対策の検討並びにEUとの交渉を始めていた。

### 新しい対策案とその承認

2017年2月3日、EUは新たにオランダより提示されたリン酸塩削減計画を承認した。当該計画は5つの項目から構成され、合計のリン酸塩排出削減量は10,800トンである。これは、元々要求をされていた6,600トンよりも大きい削減幅となる。

### リン酸塩削減計画内容

#### 1. 酪農家規模縮小(飼育頭数の削減)の要請

4,000トンの削減酪農家に対し、飼育乳牛頭数を2015年7月2日時点の飼育頭数まで削減するよう義務化。その結果として、通常の年間屠殺頭数より6万頭多くの乳牛が屠殺される見込み。また、全酪農家に対し追加の課税をするとともに、飼育頭数を削減できない酪農家に対しては課税幅を拡大する。なお、飼育頭数を基準以上に削減した場合は、今回の課税で得られた財源をもとに奨励金を給付。課税額・奨励金額ともに正確な額は未定。

#### 2. 酪農家の離農に対する補助金給付

2,500トンの削減2017年2月20日より計3回一定期間酪農家の離農申請を受入れる。第1回の申請は3月3日まで受け付ける。早い回の申請ほど高い奨励金が支払われる仕組み。第1回の場合は1頭当たり1,200ユーロに加え、何らかの金銭的特典が付く予定。この結果として、10万頭が屠殺に回される見込み。(10万頭の詳細は記載されていないが、牛全体ということで搾乳対象でない牛も対象となると考えられる。)

#### 3. 配合飼料中のリン酸塩含有量の削減

1,700トンの削減2017年1月より既に開始されており、配合飼料1kgあたりリン酸塩を4.3gまで削減するとともに、配合飼料中のリンを含む物質及び蛋白質の割合を2.2%まで削減することを義務化。

#### 4. 豚用配合飼料中のリン酸塩削減(自主規制)

1,000トンの削減2017年4月1日までに、オランダ養豚部及びオランダ配合飼料協会は自主規制としてのリン酸塩削減方策を提示する計画。恐らく豚用配合飼料中のリン酸塩配合量削減になりそう。

#### 5. 豚・鶏向け飼育頭数増加に対する追加権利特例の廃止

1,600トンの削減オランダの畜産農家は家畜の飼育に対し権利を保有する必要があるが、近年規模を拡大していた農家に対し、保有する権利の半分の頭数を追加で飼育することが可能な特例を設けていた。(例:100頭の動物を飼育している農家は特例を使用することで、50頭を追加で飼育でき、その結果合計150頭を飼育することが可能となる)この特例を2017年末に廃止し、新たに2018年から有効な飼育権を販売する予定。現在特例によって飼育されている数は、豚で約12万頭、鶏で120万羽とされている。

<阿部>

## ■メルボルン駐在員情報

### MGCS社 上半期決算発表

2月24日、MGCS社が今年度上半期(2016年7~12月)の業績を発表した。業界関係者の予想を超える損失で、非常に厳しい数字であった。集乳量は約160万トンで前年比20.6%減、売上はAUD12億(約1,030億円)で前年比14.8%減となった。またAUD4,130万(約35億円)の損失を発表している。投資家への配当は一株当たり1.7セントで半減



した。前年同時期の約 AUD1,000 万の利益とは大きくかけ離れた対照的な状況となっている。同社の契約酪農家約 2,500 戸の内、350 戸以上が酪農業を止めるか、もしくはより高い乳価を支払う Fonterra 社、Bega 社などの競合他社へ生乳の供給を切り替えており、MGC 社集乳量は激減している。今回の決算発表について各新聞、業界紙などで大きく取り上げられており、工場閉鎖の可能性を示唆する記事が多くなっている。MGC 社決算発表では工場の閉鎖については一切触れていないものの、報道によると、この 6 か月間運営コストの見直しが実施されており、集乳量激減は工場運営のコスト高に繋がるため結果的に多くの工場で製造ラインを停止し、最小限のシフト生産へ切り替えを実施している模様。ビクトリア州とタスマニア州にある製造工場 10 カ所の内、4 工場を閉鎖する可能性が示唆されている。特に生乳確保の競争が最も激しい北部に位置する Rochester 工場については、チーズ、ホエイパウダー、粉乳、バターミルクなどの主要工場として稼働しているものの、設備も老朽化しており、閉鎖の可能性が最も高いと報道されている。その他には、集乳量が回復するまでの一時的閉鎖かもしれないが、Maffra 工場、Leongatha 工場、タスマニアの Edith Creek 工場の名前があがっている。MGC 社からは今後の工場運営に関して一切発表はされておらず憶測の域は出ないが、工場閉鎖となれば、近くの主要工場へ製造設備を移管して利益率の高い原料を優先的に生産していくものと予想される。引き続き豪州最大手の乳業会社である MGC 社の動向が注目される。

### Saputo社 WCB社株を100%取得へ

2月22日、Lion社が保有していたWCB社株をSaputo社へ売却したことを発表した。売却額は一株AUD9.05。Lion社はWCB社株の約10%を保有していた。Saputo社は88.02%保有していたので、合計90%以上の株式取得に成功したこととなる。豪州会社法では、ASX上場株の株式保有に関して、90%以上の保有で残りの株式について強制取得の権利を有することになっており、2月27日付けでSaputo社はASXへ強制買収の通知が行われた。ASXでのWCB株の取引は停止となり、Saputo社は残りの株主に対してLion社からの取得額と同値の一株AUD9.05にて買い取ることを通知した。Saputo社は1月末に持ち株を拡大すること発表しており、当初は一株当たりAUD8.85でのオファーであった。Saputo社以外の株主は、第2の株主がLionで10%保有。第3の株主は投資会社のサンドンキャピタルで0.5%を保有していた。サンドンキャピタル社は提示条件が低いと引き上げを要求していた。これでWCB社は、Saputo社100%子会社となる。豪州ASXからはWCB社はなくなり、今後ASXを通じては豪州内での活動内容を知ることはできなくなり、Saputo社のあるカナダから情報が出てくることになる。WCB社の経営については、既にこの3年間でSaputo社主導のものとなっており、会社経営において特に大きな変化は出てこないと思われる。

#### 豪州生乳生産量

単位:百万リットル

	2016年12月の生乳生産(前年同月比)	2016年7月～累計(前年同時期比)
NSW	95.4 (-6.1%)	594.0 (-6.3%)
Victoria	565.6 (-4.5%)	3,294.5 (-9.9%)
Queensland	35.5 (+2.0%)	219.9 (+2.3%)
South Australia	42.8 (-6.9%)	243.1 (-11.3%)
Western Australia	32.6 (-1.0%)	201.4 (-0.7%)
Tasmania	97.0 (-1.2%)	441.8 (-8.0%)
<b>Australia</b>	<b>869.0 (-4.1%)</b>	<b>4,994.7 (-8.5%)</b>

#### ビクトリア州の地域別生乳生産量

単位:百万リットル

	2016年12月の生乳生産(前年同月比)	2016年7月～累計(前年同時期比)
東部	204.5 (+1.1%)	1,110.2 (-5.7%)
北部	164.0 (-18.0%)	949.9 (-17.6%)
西部	197.0 (+3.6%)	1,234.4 (-6.9%)
<b>ビクトリア州全体</b>	<b>565.6 (-4.5%)</b>	<b>3,294.5 (-9.9%)</b>



## ビクトリア州の降雨量

単位:mm

	2017年2月	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	29.6	12.6	33.7	-12.2%
Warrnambool (西部)	54.6	39.8	30.2	+80.8%
Bairnsdale (東部)	28.8	7.2	48.0	-40.0%
Albury (北東部)	13.0	29.4	7.1	-72.4%
Melbourne	40.2	9.0	48.0	-16.3%

## ニュージーランド主要都市の降雨量

単位:mm

	2017年1月	昨年同月降雨量	平年	平年比
South Auckland (北島)	37.5	79.4	71.3	-47.4%
Taranaki (北島)	92.0	56.0	83.0	+10.8%
North Canterbury (南島)	52.8	93.4	39.0	+35.4%
Southland (南島)	134.7	109.8	91.0	+48.0%

## 豪州品目別生産状況

単位:トン

	2016年12月(前年同月比)	2016年7月～累計(前年同時期比)
バター	6,648 (-20.3%)	41,552 (-13.0%)
バターオイル	981 (-46.2%)	7,002 (-29.7%)
CHEDDAR	17,649 (+1.7%)	93,920 (+0.8%)
その他チーズ	13,364 (-1.4%)	129,149 (-1.4%)
脱脂粉乳	23,206 (-17.2%)	151,811 (-10.3%)
全粉乳	6,972 (-1.2%)	36,330 (-26.4%)
ホエイ、WPC	5,098 (+15.4%)	28,265 (+18.8%)

&lt;松本&gt;

## ■ 米国駐在員情報

### 1月の生乳生産量

米国農務省(USDA)の発表によると1月の主要23州の生乳生産量は771万8千トンで前年同月比2.7%増となった。先月発表の12月の生乳生産量は前年同月比2.6%増の762万7,200トンに下方修正された。同じく、1月の一頭当たりの平均搾乳量は、約888.48キロと前年同月を約16.80キロ上回る数字となった。この数字は11月単月でみると主要23州で統計を取り始めた2003年以降の平均搾乳量としては最大である。

同、1月の平均乳牛頭数は、869万頭と発表され、これは前年同月比67千頭の増加であり、前月比では5千頭の増加となっている。(以上は全て主要23州)

### 2016年の全米生乳生産量

2016年の全米生乳生産量は96,248千トンで前年比1.8%増となった。年間生乳生産量は2007年と比較すると14.4%増加している。2016年の一頭当たりの搾乳量は全米平均で約10,339キロとなり、前年を約172キロ上回った。一頭

当たりの平均搾乳量を2007年と比較すると12.7%増加している。2016年の全米平均乳牛頭数は933万頭と発表され、前年比0.2%増となった。全米平均乳牛頭数を2007年と比較すると1.5%増となっている。

#### 2017年1月主要州別生乳生産量(前年同月比)

カリフォルニア州	1,549,502トン	-0.6%	(-8,626トン)
ウィスコンシン州	1,153,614トン	+1.0%	(+11,804トン)
ニューヨーク州	572,494トン	+3.8%	(+20,884トン)
アイダホ州	540,714トン	+1.0%	(+5,448トン)
テキサス州	451,730トン	+19.2%	(+72,640トン)
ミシガン州	420,858トン	+3.5%	(+14,074トン)
ペンシルバニア州	420,858トン	+2.0%	(+8,172トン)
ミネソタ州	375,912トン	+1.7%	(+6,356トン)
ニューメキシコ州	308,266トン	+15.3%	(+40,860トン)
ワシントン州	251,062トン	-0.4%	(-908トン)

### 12月のバター、チーズ、ホエイ、WPC、NDM/SMPの生産量

USDA 発表のレポートによると12月のバター生産量は前年同月比6.7%減の74,456トンであった。殆どのバター生産州で生産量は前年同月を下回っているが、特に西部での落ち込みは激しく前年比8.4%減となっている。12月のチーズ生産量は476,700トンで前年同月を1.3%上回った。アメリカンタイプチーズの生産量は188,864トンで前年同月比3.9%増、モザレラは163,440トンで前年同月比1.2%減となった。前年を上回るペースで増加しているハード系イタリアンタイプチーズの12月の生産量は14,982トンで前年同月比5%増となったが伸び率はこれまでの月と比べると縮小している。12月のホエイパウダーとWPCの生産量はそれぞれ35,412トンと16,164トンでともに前年同月比13%減となっている。一方で、WPIの生産量は増加しており、12月の生産量は4,994トンで前年同月比25%増となった。12月のNONFAT DRY MILK (NDM)の生産量は70,824トンで前年同月比3%増、SMPの生産量は23,426トンで前年同月比19%増となった。2016年末時点のNDMの国内在庫数量は103,512トンとなり2015年末時点の在庫数量を12%上回っている。

### 12月のバター、チーズ輸入量

2016年の米国のバター輸入量は28,829トンと記録的な高水準となり前年を21.6%上回った。これとは対照的にバター輸出量は15,663トンで前年比7.5%減となり、2014年と比較すると73.5%減となっている。12月単月のバター輸入量は3,214トンで9ヶ月連続、前年同月を上回り、2015年の輸入量の2倍に達する勢いとなっている。

米国産バターの価格は2016年9月初旬にヨーロッパ産を下回ったものの11月下旬には逆転して割高となり、これに従い輸入量も9月から11月にかけては減少、12月に入り増加に転じた。米国産バターの価格は依然ヨーロッパやオセアニア産と比べ割高であることから、輸入量は引き続き記録的な高水準にて推移するものと予想される。

2016年の米国のチーズ輸入量は184,006トンとなり前年比6.7%減となったが、2015年の輸入量は2007年以來の記録的な高水準であったことを考えると引き続き高い水準にあると言える。12月の米国のチーズ輸入量は21,520トンで前年同月比2.8%増となり、13ヶ月連続で前年同月を上回った。米国に輸入されるチーズの約8割はヨーロッパ産となっている。なかでもイタリア産チーズは最も多く、全体の約1/5を占めている。続いて2位はフランス、3位はニュージーランドとなっている。輸出入のバランスからすると、依然として輸出が103,285トン上回っていることから米国は引き続きチーズ輸出国ではあるものの2016年の輸出量は前年比9.4%減、2014年と比較すると22.1%減となっている。

<佐藤>

## ■ 中国駐在員情報

### ■ 上海、2017年上半期の生乳価格決定

上海酪農業代表と光明乳業代表は上海に於ける上半期生乳価格の協議を続けていたが、ようやく意見の一致を見た。現状の市況及び全国各地の生乳価格などの要素を考慮し、2度の意見交換がおよそ1ヶ月にわたって行われた結果、2017年1月20日午後、2017年上半期上海の生乳購入基準価格を3.78元/KG(61円90銭)とすることを代表間で合意した。生乳価格執行期間は2017年1月1日から6月30日となる。同時に上海地区での乳業の安定と正常な発展を促進するために現行の品質優遇価格、等級奨励、乳脂肪・乳タンパク率に上制限無し等の各措置が変わらないことも承認された。

<西村>

## ■ 主要生産国の現行乳価

	円換算乳価※1	直近の乳価	
日本	¥98.23/㍓	¥95.28/kg※2	(2016年12月)
ドイツ	¥41.30/㍓	EUR33.67/100kg	(2016年12月)
アイルランド	¥44.55/㍓	EUR36.32/100kg	(2016年11月)
オランダ	¥46.00/㍓	EUR37.50/100kg	(2016年12月)
米国	¥48.10/㍓	USD18.80/100ポンド (100ポンド=45.359kg)	(2016年11月)
豪州	¥33.06/㍓	AUD4.95/kg MS(乳固形あたり)	(2016/17年度)
NZ	¥37.50/㍓	NZD6.00/kg MS(乳固形あたり)	(2017年2月23日)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

為替レート:EUR=¥118.98 / USD=¥112.56 / AUD=86.37 / NZD=80.82

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

<出典>

日本 : 農畜産業振興機構

EU : European Commission

米国 : CLAL

豪州 : Murray Goulburn HP

NZ : Fonterra HP

お問い合わせ先:  
株式会社ラクト・ジャパン  
webmaster@lactojapan.com

出典:

- AGRA EUROPE 各誌
- Dairy Dairy Report
- Dairy Industry Newsletter
- 農畜産業振興機構“畜産の情報”
- AMS Dairy Market News
- 日刊酪農乳業速報
- Rice Dairy
- NZ Herald
- Stuff.co.nz
- 食品産業網
- Weeklytimes
- USDEC Export Trade Data
- Global Trade Information Service
- USDA's Dairy Market News
- Australian Financial Review
- 食品産業サイト
- 経済日報
- 東方ネット
- 長三角乳業

ディスクレマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当社は、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。